

今關天彭 いまみちき こんぱう 漢詩人、支那聲藝研究家。明治十六年六月十九日千葉縣生れ、昭和四十五年十月十九日没（八八三—一九七〇）。本名壽磨。石川鴻齋、森槐南等の詩を學ぶ。國民新聞社等を経く、大正七年北京の今關研究室を設置。朝鮮總督府顧問、上海日本大使館顧問、南京民國政府顧問等歴任。戰後、雜誌『雅友』主宰。

著書に、『支那戲曲集』大正六年一月—二十八年八月東方時論社。新版『支那戲曲物語』上下二冊、昭和二十年十月十日元々社「民族教養新書」、

『支那人文講話』（大正八年六月—二十九年九月讀書書院、一西社發賣）、

『支那現代ノ學術界』（大正十一年六月刊）、『北京ノ顧亭林祠』（大

正十二年一月北京・今關研究室）、『清代及び現代の詩文界』（大正

十四年七月十五日北京・今關研究室）、『浙東ノ學風』（昭和二年四

月北京・今關研究室）、『燕京書界感舊錄』（昭和四年二月北京・今

關研究室）、『近代支那の學藝』（昭和六年十二月二十八日民友社）、

『山梨稻川と其の先輩と交遊』（昭和七年四月三月稿、北京・今關研究

室）、『北島雪山と細井廣澤』（昭和八年五月刊）、『五山の四大詩

僧』（昭和八年十二月刊）、『燕山草堂說詩・第一編（論語語絶句講話

・漢代詩歌淺釋）』（昭和九年五

月—二十日有刊、南陽堂發賣）、『駿

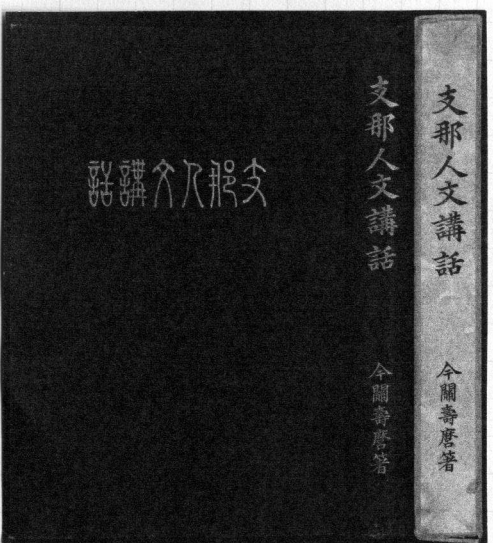
河と臨濟禪』（昭和九年十月—二十

五日靜岡・靜岡谷島屋書店）、『島

陰集と梅花無蓋藏—五山文學研

究』（昭和十年二月刊）、『嚴遠

之詩界』（昭和十年七月—二十五日



静岡・静岡谷崎屋書店（）、所藏本朝詩集（第一）（昭和十三年十月刊）、

『無文齋師の遺詩』（昭和十三年十一月）熊本・熊本縣教育會（上名郡文會）

等。